

令和5年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月26日実施)	総合評価(2月14日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>・児童・生徒の自立と社会参加を目指した教育活動を実践する。</p> <p>・ICT機器等の有効利用による多様な授業の実践・研究を推進する。</p>	<p>①授業改善につながる研究を重ね、よい授業実践を行う。</p> <p>②ICT機器を活用した授業実践を広げる。</p>	<p>①ポストコロナの教育も視野に入れつつ、教員自らが、主体的・対話的に研究・研修した成果を実践に生かす。</p> <p>②ICT機器の活用による学びの機会や協働的な学びの場面を増やす。</p>	<p>①研究・研修を授業に生かすことができたか。</p> <p>②ICT機器の活用による学びの機会や協働的な学びの場面を増やせたか。</p>	<p>①教員個々が自ら課題意識をもって設定したテーマをもとにグルーピングをし、少人数グループで研究を進めた。国立特別支援教育総合研究所所員による指導助言を受け、研究を深めることができた。</p> <p>②ICT機器を活用し、教室、病棟、施設、一時外泊中の自宅等、様々な場所をオンラインでつないで授業を展開することができた。 ・夏季休業中に職員個々の希望に沿った機器操作研修会を10回以上開催し、職員のスキルアップを図ることができた。</p>	<p>①ここ数年は、少人数グループで活動し、活発な討議ができ、一定の成果を上げることができた。来年度以降は、次の4年間の目標に照らし合わせて、研究方法や研究内容を検討する予定である。</p> <p>②今後も、ICT機器をより多くの場面で効果的に活用できるよう、さらなる研鑽を重ねる。また特に、一人一台専用端末の導入に伴い、オンライン以外でICTを活用した授業実践を展開することができるよう、研鑽を重ねる。</p>	<p>①職員一人ひとりが課題意識をもって研究・研修に取り組んでいる。今後も、実践につながる研究・研修を積み重ねてほしい。</p> <p>②一人一台専用端末が整備されたことにより、教育実践の可能性が広がったと思われる。他校の実践も参考にしながら、横浜南支援学校の実態に合わせた活用が望まれる。</p>	<p>①教員個々が主体的に研修することができた。それぞれのグループの成果を、情報として共有するだけでなく、実践に生かしていくことが課題である。</p> <p>②学校と病棟、家庭などをオンラインでつなぐ実践は、一定の成果を上げている。今後は、一人一台専用端末が整備されたことに伴い、それらをどのように活用していくかが課題である。</p>	<p>①新たな4年間の、目標、および新たな本校のミッションに照らし合わせながら、研究方法や研究内容を検討する。</p> <p>②他校の実践事例に関する情報を収集しながら、本校の指導体制にマッチした活用方法を模索していく。</p>
2 児童・生徒 指導・支援	<p>・児童・生徒一人ひとりの個性や医療状況を尊重し、教育的ニーズに応じた指導・支援を組織的に行う。</p>	<p>①自尊感情を育み自分や他者を大切にすることを教育に取り組む。</p> <p>②個別教育計画の内容を共有することで効果的な児童・生徒の指導・支援を行う。</p>	<p>①児童・生徒の自己理解、他者理解をすすめ、コミュニケーション力の育成に努める。</p> <p>②打合せや回議を利用して情報を共有することで統一した指導・支援を行うとともに見直しを適切に行う。</p>	<p>①児童・生徒が理解協力する教育活動の場を作ることができたか。</p> <p>②個別教育計画の共有・見直しにより教育効果を高めることができたか。</p>	<p>①転出入が頻繁なため学級集団作りが困難な中、授業や行事の中で意見交換や他者の意見を聞く機会を多く設定することにより、自己理解、他者理解をはぐくむことができた。 ・その前提として、病棟や施設など関係する他機関他職種と定期的開催するカンファレンスに加え、日常的な情報交換を通して、必要な指導を行うことができた。</p> <p>②個別教育計画の活用に向けて、口頭での共有や見直し期間を設定することで、教員間で児童・生徒の実態の共通理解のもとに指導を展開することができた。</p>	<p>①今後も児童・生徒同士が交流する場面を多く設定し、主体的・対話的で深い学びを実現させるよう、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら活動を展開していく。 ・今後も、他機関他職種連携を行い、児童・生徒の医療状況、日々の体調管理に加え、病棟内での様子を把握しながら、指導を行っていく。</p> <p>②病状による配慮事項や転入前の学習状況が個々により大きく異なるため、日々の情報共有を続け定期的に見直しを行いながら有効に活用することで、教育効果を高めていく。</p>	<p>①学校と病院関係者が、定期的な会議に加え、日々の情報共有を丁寧に積み重ねている結果が、児童・生徒の健康管理や治療効果、そして安心・安全につながっていると思われる。今後も是非、密接に連携を取り合ってほしい。</p> <p>②計画したことを見直ししながら、指導に生かしていくことは大切なことである。今後も継続して取り組んでほしい。</p>	<p>①病院と学校との間で行われている様々な会議やケースカンファレンス、日々の情報共有は、とても有意義である。引き続き、連携協力を行っていく。</p> <p>②個別教育計画の日常的な共有と、定期的な見直しを行い、有効に活用することができた。</p>	<p>①形骸化しないよう、会議の開催頻度、開催時期、参加メンバー等を見直ししながら、適切に運営をしていく。</p> <p>②日々の教育実践に生かすために、よりよい方法を模索していく。</p>
3 進路指導・ 支援	<p>・将来の生活の充実を目指し、進路指導、移行支援、キャリア教育を行う。</p>	<p>①地元校の指導を引き継いで児童・生徒が主体的に自己選択・自己決定できるようにする。</p>	<p>①キャリアパスポートや地元校との丁寧な引継ぎにより連続性のあるキャリア教育を行う。</p>	<p>①キャリア教育に連続性を持たせることができたか。</p>	<p>①学年に応じた丁寧な進路を積み重ねた。また、キャリアパスポートについては学期始めと学期末の節目に活用することで、自分の将来について考える機会とした。</p>	<p>①転入時、転出時等様々な機会をとらえて進路への意識を持たせることで、地元校と連続性のあるキャリア教育を目指していく。</p>	<p>①地元校との切れ目ない引き継ぎは、医療面での情報共有だけでなく、キャリア教育の上でも大切なことである。今後も引き続き、工夫を重ねて取り組んでほしい。</p>	<p>①転入時、転出時を中心に適宜連絡を取り合うことで、地元校との切れ目ない指導につながった。</p> <p>①疾病の状況によっても活用の度合いが異なるが、個々の状況に配慮して引き続き取り組んでいく。</p>	

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月26日実施)	総合評価(2月14日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	・将来の生活の充実を目指し、進路指導、移行支援、キャリア教育を行う。	②一人ひとりに応じた進路指導を行う。	②地元校と連携しつつ、病院とも連携し、児童・生徒の状況に合わせた適切な進路指導を行うとともに、学部全体で情報共有する。	②地元校や病院と連携して適切な進路指導ができたか、学部で共有できたか。	②公立高等学校入学者選抜に際しては、新たに導入されたインターネット出願システムに関する指導を行った。	②入学者選抜に関して、公立と私立とでシステムが異なることなども含め、学部全体で共通理解をし、保護者に対して適切に情報提供ができるようにしていく。	②居住地が広範囲であり、公立高校でも全日制、定時制、通信制、さらに市立、私立と、様々な選択肢がある。引き続き個々の進路先に合わせて、丁寧に対応してほしい。	②5名の公立高校受験、1名の私立高校受験に関わり、進路選択、受検時の配慮事項の申請等、個々の実態に合わせて丁寧に対応することができた。	②中学部担当の全員が制度を理解して、進路指導を進める。
4	地域等との協働	・病弱教育に関する理解・啓発を図り、児童・生徒の地域生活が豊かになるよう支援を行う。	①学校の情報や研修会等の発信を行い、病弱教育委員会についての理解が広がるようにする。 ②児童・生徒が学校生活や地域生活に円滑に移行し継続できるようにする。	①ホームページの充実や研修研究の発信、支援冊子の改訂・周知等で病弱教育委員会の理解をすすめる。 ②復学支援会議等を丁寧に行うとともに、フォローアップから得た知見をいかすことで円滑な地域生活ができるようにする。	①病弱教育について情報発信し、病弱教育理解に貢献できたか。 ②復学支援会議とフォローアップの充実により円滑な地域生活を支援できたか。	①HPの運用に加え、学校だよりで各学部部門の日常の取り組みや学校の身近な話題について、病院スタッフ向けに発信することができた。また、周辺の施設や保育福祉専門学校、教育相談の連絡会等で情報を発信し、理解啓発を図った。 ②復学支援会議では、本人、保護者、医師、看護師、訓練士、本校担任、本校コーディネーター、地元校担任、コーディネーターと、様々な立場のメンバーが参加できるようコーディネートし、地元校に対して的確に引継ぎができるよう努めた。	①今後も本校の取り組みや、病弱教育全般に関する情報発信を積極的に行っていく。そのために、学校だよりの新たな企画を模索していく。また、地域からの研修会講師派遣依頼などの機会を通し、病弱教育の理解啓発を図っていく。 ②地元校との連携を深め、円滑な復学について支援を充実させていく。また、退院後の外来通院などの機会や、学校間連携の中で情報を収集し、フォローアップをさらに充実させていく。	①今回、学校運営協議会で出されたアイデアである、学校だよりの病院内開架、そして復学支援会議に関するチラシの作成など、提案が形になったことは評価できる。今後も、アレンジを加えながら、病弱教育について情報発信をしてほしい。 ②復学支援会議は、地元校と円滑に引継ぎをするための大切な会議である。今後は、地域のセンター的機能の一環として、横浜南支援学校に在籍していない児童・生徒への支援も充実させていってほしい。	①学校だよりの開架、復学支援会議に関するチラシの作成など、一定の成果が見られた。今後は、それらの訂正運用を継続していくことが課題である。 ②1月末の時点で34回の復学支援会議を実施した。外来通院時に復学後の情報を収集することで、復学支援会議の大切さを再確認することができた。今後は、フォローアップに関する実践を積み重ねてく。	①ある程度限定した対象者を想定したチラシの作成など、ニーズに応じて改定をしていく。 ②一定期間後に、地元校のコーディネーターと連絡を取るなど、計画的な対応ができるように。
5	学校管理 学校運営	・教職員が同僚性を発揮して質の高い教育を展開する。 ・児童・生徒と向き合う時間を確保するために、働き方改革を推進する。	①校内外の協働により、安全安心な教育の場を作る。 ②働き方改革の成果や外部支援の活用により、教育環境の向上を図る。	①引き続き新型コロナウイルス感染症対策に取り組む他、不祥事・事故防止を図り、安全安心な教育を行う。 ②ICT活用や校内の全教職員が協力はもとより、学校外からの協力も得、教育環境の向上に努める。	①病院や校内の多職種と協働しての新型コロナウイルス感染防止対策や不祥事・事故防止に取り組めたか。 ②外部資源の活用も含めた教育環境の向上が図れたか。	①新型コロナウイルス感染症対策が緩和される中、病院の感染制御室との連携を密に取りながら、病院のルールに合わせて適切に対応を進めることができた。 ・病院の避難訓練に参加し、情報伝達経路の確認等に努めた。また、所管警察署と連携し、不審者対応訓練を実施した。 ②業務アシスタント、業務サポーターと適切に連携を図りながら、業務を遂行することができた。また、オンラインを活用した出前授業、講師が来校してのワークショップなど、外部資源を活用した質の高い授業を展開することができた。	①今後も、感染制御室と連携協力、情報共有を行い、社会情勢の変化も踏まえながら、児童・生徒の安全安心な教育環境を確保する。 ・防災、防犯に対して、繰り返し訓練を積み重ねることで、児童・生徒の安全安心を守っていく。 ②今後も連携を進めるとともに、業務マニュアルを改訂しながら、業務改善及び円滑な引継ぎを行うことで、働き方改革を一層推進していく。	①社会情勢と、医療機関の中にある学校とでは、対応が異なるのは理解できる。今後も連携協力の下、適切に対応をしていってほしい。 ・防災・防犯については、とても重要な視点であるため、今後も定期的に訓練を積み重ねていってほしい。 ②教師の多忙感については、様々なところで取り上げられている。必要なことは残しながら、効率化を図ることが大切である。	①コロナ前に行われていた調理実習(2回)、校外学習(2回)、遠足(3回)、修学旅行(5回)などを安全に実施することができた。 ・病院全体の避難訓練に参加することで、現時点での課題点が明らかになった。 ②病院の体制の変化や社会情勢の変化が学級数の変化につながり、教員数が減少する見込みである。教員数が減っても持続可能な教育課程づくり、組織作りが課題である。	①単純にコロナ前に戻すのではなく、現状に合わせた形に修正改善を加えることが重要である。 ・今後も、地道に訓練を積み重ねることで、災害時の安全を図る。 ②担当する業務のマニュアル化して、適切に引き継ぐ。